

## 図書館サポーターズだより



# 明日に吹く風

夏本番の暑さとなり、青空が眩しい季節となりましたね。夏休みのお供に本はいかがでしょうか？  
今月も、図書館サポーターが皆さんにオススメの本を紹介します。



## ～図書館サポーター推薦図書～

### 『夜行』：森見 登美彦 著 (913.6 || Mo78)

「彼女はまだ、あの夜の中にいる。」学生時代、英会話スクールに通っていた仲間と鞍馬の火祭を見に行くことになった一同。登場人物それぞれが物語の語り部として、旅先での不思議な体験談を話します。また、それぞれの体験談が、在りし日の「長谷川さん」と結びつき物語は進んでいきます。あの日、なぜ彼女は私たちの前からいなくなったのか。本作品のタイトルでもある「夜行」の意味とは。読み進めるほど謎が深まっていきます。また、森見登美彦が作家生活 10 周年を迎えた節目の作品でもあります。『夜は短し歩けよ乙女』や、『有頂天家族』など今まで描いていた青春群像劇とはまた違う、本格ミステリーを是非ご賞味あれ。 (Y・S)

### 『ハリー・ポッターと呪いの子』：J.K.ローリング 著 (932.7 || R78)

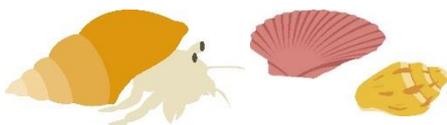
ヴォルデモートとの戦いから 19 年。ハリーは魔法省の激務に襲われる日々。主人公アルバスは「ハリーポッターの息子」として息苦しい生活を送る。しかし、そんな中でアルバスはマルフォイの息子「スコルピウス」と徐々に親しくなり…。

本書は舞台の脚本で、今までのハリー・ポッターシリーズとは少し異なったものとなっていますが、ハリポタファンやその後のハリー達はどうなったのか知りたい！と思う方にはぜひ読んでいただきたい作品となっています。特に、ハリーと敵対していたマルフォイが意外にも一人の父親として、ハリーとともに協力しあう場面はとても印象的です。そして、何よりも父と子の親子の愛があふれている作品となっています。新たな主人公アルバスとともに素敵な魔法の世界をのぞいてみませんか？ (N・Y)

### 『×切本』：左右社編集部 編 (914.68 || Sa99)

皆さんは学生生活のなかでこんな苦労をしたことはありませんか？レポートの提出期限が迫っているのに全然終わっていない、書く内容が思いつかない、ついついやらない理由を探してしまう……。などなど課題は計画的に取り組むことが一番ですが、まさに「言うは易く行うは難し」です。では、物書きのプロである作家やライターはこの難題とどう向き合っているのでしょうか？実は、教科書に載るような偉人や文豪でも私たちと同じような悩みを抱えているようです。

この本は、過去に名を馳せた作家や文豪から現在でも活躍している小説家・漫画家まで、「×切」に追われる様々な人々のエピソードを集めたエッセイです。「×切」に対する苦悩や葛藤、現実逃避から、「×切」を巡る編集者との攻防やユニークな言い訳など、物書きのプロたちの意外な一面を垣間見ることが出来るオススメの一冊です。 (Y・Y)



\* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。